

資料番号-サブナンバー	名 称	内 容	備 考
052182-(1/7)	操縦性シンポジウム	日本化学会講堂・東京駿河台 昭和39年6月25、26日、造船協会 一目次— 船の旋回運動方程式とその微係数 船の操縦性 舵の性能およびその設計について 操縦性に関する模型船試験と最近の成果 操縦性に関するトピックス	井上正祐 野本謙作 岡田正次郎 山内保文 元良誠三 B5版 57頁
052182-(2/7)	港内操船の手引き(超大型船)	社団法人 日本海難防止協会 昭和42年5月 一目次— I 超大型船の主要目および運動性能—公試運転成績— II 操縦性能 III 制限水路における操縦性 IV 浅水域航行中の船体沈下 V 風圧力および流圧 VI 接岸力とフェンダー VII 逆転停止性能 VIII 錨と係船設備 IX 錨泊および係留法 X 主要港における超大型船用バースと航路の特徴	B5版 104頁
052182-(3/7)	TANKER MANOEUVRING CHARACTERISTICS	SHELL INTERNATIONAL MARINE LIMITED August 1968 Shell Internationalが主として自社グループの船の船長やオフィサーのための基礎知識として、操船時の舵取りやエンジン出力に対する船の応答、すなわち停止性能、旋回性能、操舵性能、を18,000 DWT, 50,000 DWT, 110,000 DWT および 210,000 DWTタンカーの満載状態および3通りのエンジン出力、Slow ahead/Half ahead/Full aheadについてそれぞれ操縦性試験を行った結果を報告しかつ図表で示している。 なお、比較のためにかつ幅広い感覚をえるために、バラスト状態(20-25% 夏期満載喫水DW)でも全ての船型で一連の試験を実施し、満載状態と同様、ある点ではより良い操縦性能が得られたとしている。ただし、具体的な試験結果は示されず図表も無い。	A4版テキスト 11頁 A3版図表 16頁

資料番号-サブナンバー	名 称	内 容	備 考
052182-(4/7)	各種提出資料、実験結果図表、手書きメモなど	<p>①“THE MANEUVERABILITY OF TANKERS IN VIEW OF COLLISION AND STRANDING AVOIDANCE” SUBCOMMITTEE ON THE DESIGN AND EQUIPMENT - 3RD SESSION SUBMITTED BY JAPAN (IMCO-当時-の設計艦装小委員会に日本が提出した資料と思われる。日付不詳。「元良」の楕円形認印押印あり) 無番:各社各種オイルタンカーの主要目、推進機関要目、Crash Stop Astern, 操船試験、旋回試験、Zig-Zag試験、スパイラル試験結果の一覧表</p> <p>② 11th ITTC 提出資料 Subject - Manoeuvrability Unusual Scale Effect on Manoeuvrabilities of Ships with Blunt Bodies by K.Nomoto</p> <p>③ ITTC MANEUVRABILITY COMMITTEE, AUG.1968 SOME NOTES ON THE APPLICATION OF K-T ANALYSIS TO MARGINALLY STABLE SHIPS. by K.Nomoto 無番:衝突回避の見地からのタンカーの操縦性 手書き原稿の複写 1. 水深の深い海域におけるタンカーの操縦性 2. 制限された海域における操縦性 3. 針路安定性の影響 無番:(元良先生直筆)手書きメモオリジナル(講義か論文のためではないか)</p>	紙袋入り
052182-(5/7)	巨大船答申	<p>一 昭和40年12月17日付け 造船技術審議会 山県昌夫委員長より 中村寅太 運輸大臣あての答申書 一 運輸大臣諮問第12号「巨大船建造上の技術的問題点及びその対策如何」に対する答申(案) 審議概要 運輸省船舶局</p> <p>すでに15万重量トン級のオイルタンカーが建造されていたが、さらに大きな20万トン級のオイルタンカー建造を視野に、構造、性能、振動、主機・軸系、艦装・補機・部品、自動化、安全、建造法・工作法などの部門別に研究開発および試験設備製作を行い、昭和41、42、43、44年にかけて総予算約14億6千万円を答申した。 別途、大規模な施策研究として主機・軸系関係に高性能軽量タービンの試作費7億円があるが、これは上記の年度計画には含めていない。</p>	運輸省の封筒入り 前者はB5サイズよりやや小さめの76ページ 後者は同サイズの865ページ
052182-(6/7)	超巾広船研究会 (日立造船株式会社)	<p>昭和47年から48年にかけて行われた、日立造船の「超巾広船研究会」資料 元良教授と野本教授が顧問。 第1回は昭和47年4月28日に開催され、昭和48年10月3日の第6回までの資料がほぼ収められている。第6回の議事録によれば、次回の研究会を持って終了するとあるが、第7回の案内状、資料、議事録は見当たらない。</p>	黄色の紙バインダーに束ねて収められている。タイトル「巾広船研究会」

資料番号- サブナンバー	名 称	内 容	備 考
052182- (7/7)	ULCC	第1回 ULCC 研究会 資料 ⑥ 昭和48年5月11日 石川島播磨重工業株式会社	それぞれ黒 いハードカ バーの表紙 と裏表紙をつ けて綴じられ ている冊子
		第2回 ULCC 研究会 資料 ⑥ 昭和48年7月20日 石川島播磨重工業株式会社	
		第3回 ULCC 研究会 資料 ⑥ 昭和48年9月28日 石川島播磨重工業株式会社	
		第4回 ULCC 研究会 資料 ⑥ 昭和48年11月30日 石川島播磨重工業株式会社	
参照資料		<p>なお、巨大船に関しては、</p> <ul style="list-style-type: none"> - 保存委番号 52124 マラッカ海峡協議会(ドラフト部会) - 保存委番号 52319 運輸技術審議会 <p>が、別途登録されているので参照されたい。</p>	